日本学術会議主催学術フォーラム「東日本震災と報道メデイア」の開催について

平成２３年５月２１日（土）に、日本学術会議講堂において学術フォーラム「東日本震災と報道メデイア」が実施され、多くのマスコミ関係者や一般来場者が参加した。

本年３月 11 日、東北・関東地域を襲った東日本大地震は、その後の大津波とともに，太平洋沿岸部に未曾有の被害をもたらした。この状況は、国内外の人々にメディアを通じて届けられ、まさに国民的な―そして世界的な―災害として経験されることになった。テレビや新聞などマスコミは、地震直後からいち早く特別体制を組み、被災状況、特に福島原発の被害を伝える臨時番組を放送し続けた。インターネット上ではツィッターやブログ、USTREAM などのソーシャルメディアを通じて被災状況の情報交換が活発に行われた。こうした情報の渦に、海外のテレビや新聞の情報が流れ込み、震災直後のメディアは，それ自体未曾有の洪水状態になった。その一方で、被災地の大部分は、こうした基本的な情報アクセスからも取り残され孤立を強いられた。

このフォーラムにおいて、この東日本大地震に対して報道メディアがどのように機能したのかを検討した。マスメディアはどのように災害を報道したのか。ジャーナリズムの役割は何か。ソーシャルメディアは災害時にどのように働いたのか。そして、今日メディアの「公共性」とは何なのか。社会学者、メディア・文化研究者の立場から今回の災害とメディアの関係を検討し、今後のあり方について討論した。

（出演者）

分科会の主旨・活動に関する説明

吉見俊哉（日本学術連携会員・メディア・文化研究分科会委員長・東京大学教授）

報　告　５名

「福島原発とメディア」開沼　博（東京大学）

「震災と科学ジャーナリズム」田中幹人（早稲田大学准教授）

「大震災とメディア－－何によって何が語られたか」

遠藤　薫（日本学術会議連携会員・学習院大学教授）

「災害と情報格差：在日外国人に対する情報提供について」

田嶋淳子（日本学術会議連携会員・法政大学教授）

討　論　　伊藤　守（日本学術会議連携会員・早稲田大学教授）

毛利 嘉孝（日本学術会議連携会員・東京藝術大学准教授）

討　議　（コーデイネーター）毛利嘉孝、伊藤守、報告者

閉会挨拶　　吉見俊哉